

けいせつ
螢雪の功はってん
発展 ①けいせつ
螢雪の功

(中国の古い話)

昔、中国の晋^{しん}という国に、車胤^{しゃいん}という青年がいました。車胤は、とても勉強熱心でしたが、家が貧しく、夜に明かりをとすための油を買うことができませんでした。昼は働かなければならないので、本を読めるのは夜だけです。けれども、明かりがなければ、暗くて字は読めません。

そこで、車胤は、夏の夜になると、たくさんのほたるをつかまえて、うすい布のふくろに入れました。そして、そのほたるの光で、本を読んだのです。

同じころ、孫康^{そんこう}という青年も、やはり家が貧しく、油を買えませんでした。孫康は、冬の夜、まどの外に積もった雪のわずかな明るさをたよりに、本を読み続けました。

二人は、このように苦勞して勉強を続け、やがて、国の大切な役目をつとめる、りっぱな役人になったと伝えられています。

この話から、苦勞して勉強にはげむことや、その成果を、「螢雪の功^{けいせつ}」というようになりました。卒業式で歌われる「ほたるの光」という歌も、この話がもとになっています。

1 車胤^{しゃいん}が、ほたるの光で本を読んだのは、どうしてですか。

2 孫康^{そんこう}は、何の明るさをたよりに本を読みましたか。

まどの外に積もった

3 二人は、やがてどうなりましたか。

ア りっぱな役人になった。

イ お金持ちの商人になった。

ウ 有名な詩人になった。

4 「螢雪の功^{けいせつ}」とは、どういう意味ですか。

5 この話のもとになった、卒業式で歌われる歌は何ですか。

「

」